

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 11 月 13 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3871000190
事業所名	ユニットぐんちゅう
(ユニット名)	A棟
記入者(管理者)	
氏 名	森田みずほ
自己評価作成日	令和 6 年 9 月 26 日

(別表第1の2)

【事業所理念】 和らかい言葉 温かい雰囲気 安心できる居場所	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 日常生活の中で「できること・できそうな事」を、一緒に行っていく,または,見守っていくことができる ○BPSDワークシートを使用し認知症になっても本人が自分らしく生活できる事を探しケアプランに盛り込んでいる 地域の活動や行事に進んで参加することができ ○伊予農生の研究発表のためのアンケート調査等などの協力	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 平屋建ての事業所の敷地内には、花壇に季節ごとの花が植えられ、菜園に季節の野菜が栽培され、利用者は成長や収穫を楽しみにしている。道路に面した開放的な玄関先は、家族や地域住民が出入りしやすい雰囲気が感じられる。定期的に、内部研修を実施し、職員間で認知症の理解を深め、利用者の不安を取り除きながら、より良いサービスの提供に努めている。また、一人ひとりの利用者のできることやできそうなことを探し出して、楽しみや役割、出番を提供するほか、日々の暮らしの中で、利用者の自由な選択を尊重した支援を実践している。さらに、宅配業者から食材が届けられ、事業所内で職員がレシピを見ながら調理するとともに、栄養士の資格を持つ職員が利用者の状況に適した物かどうかの献立内容を確認し、随時献立の変更依頼をするなど、利用者により良い食事が提供されるよう配慮している。月1回、利用者から好みを聞いて、リクエストメニューを提供したり、週に数回はおやつを手作りしたりすることもあり、利用者に喜ばれている。事業所の菜園では、地域の高校生の園芸セラピーの実習を受け入れて、高校生との交流を図るとともに、菜園で旬の野菜を収穫し、食卓に上ることもある。加えて、代表者は毎月事業所に来訪があり、職員の意見や希望を聞くほか、職員のスキルアップや資格取得にも協力的で、職員が向上心を持って働けるような環境づくりに取り組んでいる。代表者や管理者、職員の相互の信頼は厚く、利用者のほか、外国人の技能実習生への眼差しや声かけは優しく、安心した穏やかな生活にも繋がっている。
---	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	話されている事・やりたそうな事を見逃さないように心がけている	◎		◎	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、思いや暮らし方の希望、意向などを聞き取り、フェースシートに記載して職員間で共有している。入居後にも、日々の生活の中で、利用者から思いや希望を把握するように努めている。新たに把握した情報は赤字で追記するとともに、1年に1回程度、フェイスシートなどの情報を更新している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	基本的に個別性を大切にし「本人はどうか」と意識している				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会の時など、利用者の家族や友人と本人のこれまでの生活や今の状況などを話している				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人が話したことや行っていることを日々の記録に残し共有している				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	「○○しますか?」「○○しませんか?」とまず聞くようにしている				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前から本人や家族に色々な面での話を聞きアセスメントしている。入居後も毎日の生活の中で情報収集を行い家族との連携に努めている			◎	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、フェースシートやアセスメントシートを活用して、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわり、生活環境等の聞き取りをしている。また、入居前に関わりのあった病院や施設の担当者から情報を収集するとともに、担当していた介護支援専門員からサービス利用の経過等の情報を提供してもらうこともある。さらに、入居後に得られた新たな情報は、アセスメントシートなどに追記し、申し送りなどを活用して職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	生活の中で本人の体調・様子を見ながら「出来ること」「出来そうな事」の現状の把握に努めている				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	その日のバイタル・会話・行動等、観察をし利用者の状態の把握に努めている				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	日々の生活の様子を見て、コミュニケーションをとりながら本人が求めている事・必要としている事を理解しようと努め検討している			◎	日々の会話や暮らしの様子から、職員は利用者の状態の把握に努めるとともに、家族から意見や意向を確認している。また、医師や看護師、薬剤師等の意見も踏まえて、定期的にカンファレンスを実施し、何を求めて必要としているのかを利用者の視点で検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	定期的にカンファレンスを行い本人にあった暮らしが出来るよう課題の把握に努めている				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日々の生活や会話・言動を大切にし、本人の思いや意向を反映する為の支援になるよう努めている				毎月実施するカンファレンスでの検討事項のほか、3か月に1回利用者ごとの担当職員がモニタリングした評価に基づき、計画作成担当者が介護計画の原案を作成するとともに、担当者会議の中で検討をしている。また、会議で出された意見やアイデアを反映して、計画の原案を修正するとともに、利用者や家族に計画を説明して、了承を得ている。訪問調査日には、利用者の意見を反映するとともに、課題解決に向けた個別性のある計画作成を確認することができた。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人は日々の生活の様子や会話で、家族とは面会時等コミュニケーションに努め意見やアイデアを気軽に出し合える関係を作り反映できるよう努めている	○		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意思疎通の難しい方に対してもこれまでの生活や思いや意向を理解しようと努め安心して穏やかに過ごせる内容になるように努めている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	友人や知人・家族等の協力を盛り込んだ内容がある				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	モニタリング・カンファレンスにて介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している	/	/	○	介護計画は、利用者の個別の担当者会議で検討され、職員間で内容を共有するとともに、ファイルに綴じられ、職員はいつでも計画を確認できるようにしている。また、介護計画に沿った支援の実践や評価は、内容により介護記録で確認することができるほか、月1回のカンファレンスや、3か月に1回のモニタリングの評価を通じて、情報を共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	本人の言葉や行動・出来事など生活の様子を日々具体的に記録し、モニタリングやカンファレンスを定期的に行い職員間で状況確認を行い日々の支援につなげている	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	利用者の介護によって見直したり改善したりしており、その人にあったケアプランを行っている	/	/	◎	概ね6か月に1回介護計画の見直しをしている。また、新たな要望や変化が見られない場合にも、毎月のカンファレンスで、利用者の状況を確認するとともに、3か月に1回モニタリングを行い、評価を残している。さらに、利用者の心身の状況に変化が生じた場合には、必要に応じて関係者で話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	利用者によって一つ一つの変化が見られない場合は現状確認を行ったり見直しを行っている	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人の暮らしにあったケアプランを計画し家族などとの連携をして新たなケアプランなどの作成を行っている	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	BPSDのワークシートを使用し定期的にカンファレンスをしている。課題は内容や場面によってその都度必要なメンバーで話し合いを行う	/	/	○	ユニットごとに、朝夕の申し送りを実施し、利用者の情報共有を図っている。月1回カンファレンスを実施して、利用者の現状等を確認するとともに、ユニット合同で安全委員会を開催して、利用者の個別の状況や事業所の出来事等の共有を図り、その時々課題解決に向けた話し合いをしている。また、緊急案件が生じた場合には、その日の出勤職員で話し合い、迅速に対応をしている。さらに、多くの職員が参加できる時間帯に会議を開催するほか、会議に参加できない職員には事前に意見を聞くとともに、終了後に議事録の確認してもらい、サインを残すことで情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	普段から考えや気持ちを確認したり意見交換できる環境を目指している	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	内容によって話し合う場面も変わってくるが必要に応じて共有できる工夫を行っている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝夕の申し送りのときや内容や場面に応じて申し送りノート・付箋・メモを使い情報の共有に努めている	◎	/	○	介護記録や申し送りノートを確認しながら、ユニットごとに、朝夕の申し送りを口頭で実施している。出勤前に申し送りノートを確認し、確認後に職員はサインを残すとともに、必要な事柄は各自で別途メモを取るなど、確実に情報共有に努めている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	個別性を大切にしているが、引きこもり気味や知訥のことに集中してしまうときなどは助言と一緒に行えることを提供している	/	/	/	朝の体操や口腔ケアなど、事業所の日課として継続して行われているが、基本的に職員は利用者の自由な選択や自己決定を尊重し、洋服選びや外出先、日々の活動など、生活の様々な場面で、職員は声をかけて利用者の意見を聞き、生活の中に取り入れるようにしている。また、職員は利用者が笑顔で過ごせるように、利用者の好みの話題や安心するような話題提供を心がけ、表情を観察する眼差しや声かけは優しく、笑顔で接している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	日々の暮らしの中、利用者の言動、表情などを観察し本人の希望を大切にしている	/	/	◎	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	本人のペースとタイミングに合わせて習慣を大切に支援している。夜に入浴したい方にも状況を説明しながらも本人が納得できるような声掛け誘導に努める等、なるべく決まりや都合を優先していると感じて頂かない様に気を付けている	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	優しい言葉がけを行い、少しずつ関わりを大切にする。本人の表情に気を付け、笑顔で雰囲気作りに努めている。	/	/	◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	意思疎通が困難であってもきちんと利用者の目を見て優しく声掛けし、小さな頷きにもしっかりキャッチしている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	◎	定期的に研修を受けており常に意識をしながら対応できている	○	○	◎	研修等を通して、職員は認知症ケアの学びを深めている。カンファレンスなどを活用して、管理者は職員への利用者のプライバシー保護や虐待防止の周知徹底を図るとも、定期的に気になることなどの話し合いをしている。また、長年勤務している職員が多く、利用者との信頼関係ができた上で、親しみを込めて、馴れ馴れしく接する場面も見られるが、家族にも理解を得ながら、利用者を尊重した言葉遣いなどが行われている。さらに、利用者の希望に応じて、ちゃん付けで呼ばれている利用者もいるが、人格否定をすることなく、周囲から頼りにされ、親しみのある呼称となっている。加えて、利用者の居室は基本的に閉められているが、中には、利用者の希望で開放している居室もある。訪問調査日には、職員が居室に入る場面が見られ、事前に利用者 に声をかけ、了承を得てから入室する様子が見ることができた。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	カーテンを閉めたり扉を閉める、また必要に応じてタオルをかける等配慮している	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室へ入る時はノックしたり声掛けしてから出入りするようになっている	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	定期的に研修を受けており理解し遵守している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	お盆拭き、洗濯物をハンガーにかけたりスタッフと一緒に外まで干しに行っている				職員は利用者一人ひとりの性格や能力、関係性を把握するとともに、日頃から目配りをした見守りをしている。トラブルが起こりそうな場合には、職員が早期に間に入るとともに、必要に応じて、配席を変更するなどの対応をしている。また、世話好きな利用者に頼りながら、孤立しがちな他の利用者と交わえるように、関係を取り持つようにしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	スタッフは利用者の様子を観察し必要に応じて間に入ったり、できそうなことを一緒に行うなど場面づくりをしている				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	利用者同士の関係を把握し早めに対応し、席の配慮を替えたり、利用者が孤立にならないよう支援に努める			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルに対してはスタッフ間で早めに情報を共有し、利用者が不安にならないよう対応に努めている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前の生活状況(アセスメント)にも注目し、本人と家族などスタッフ間で情報共有している。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	知人の方の訪問、ミニ情報持参で本人との関わりを大切にしている馴染みの美容室を利用し、楽しい時間に努めている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	あじさい見学や動物園など季節に合わせてのドライブやつくし探りや神社散歩・庭の散策など、お天気や体調に合わせて都外に出る事をしている	○	○	○	コロナ禍や猛暑を経て、外出しやすい気持ち良い季節となり、日常的に近隣にある神社まで散歩したり、庭に出て、外気浴をしたりするなど、屋外に過ごす機会も多くなってきている。また、近隣にある法人内の他事業所から車を借りて、ドライブに出かけることは、利用者に喜ばれている。訪問調査日にも、庭に出てレクリエーションで歌を楽しむ利用者の様子を見ることができた。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ感染予防の為、現在、実施できていないが、以前は、地域の方と、いちご狩り、芋炊き等、外出できていた。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	定期的に内部研修を行い、認知症について理解を深め、職員同士、カンファレンス等にて話し合い、利用者の不安を取り除くケアを行なっている。				研修等を通じて、職員は認知症の進行に伴う心身機能の低下を理解し、少しでも利用者のできることやできそうなのが継続できるよう支援している。握力の低下により、食器を持って食べにくくなった利用者には、小さなお皿に小分けしておかずなどを提供し、自分で食べられるよう工夫している。また、調理の下ごしらえや洗濯物たたみなど、利用者の能力に応じた環境を整えている。さらに、できることは時間が掛かっても、利用者自身にしてみらい、職員はできるだけ手や口を出さずに待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	食時前に、利用者全員で口腔体操を行なったり、嚥下機能が低下している利用者に対しては、個別にてアイスマッサージを行うなど、取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	野菜の皮むきや、洗濯物たたみ等の手伝いの他、多少、時間がかかっても、更衣や自力摂取できるよう見守っている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	編み物や、縫い物、写経や花の水やり等、利用者それぞれの、得意なことや楽しみを把握できている。				職員は利用者一人ひとりの得意なことや楽しみを把握し、高齢化や重度化が進行しても、洗濯物たたみやテーブル拭きなどの役割が担えるよう支援している。一人ひとりの利用者のできることやできそうなことを探し出して、楽しみや役割、出番を提供するほか、日々の暮らしの中で、利用者の自由な選択を尊重した支援を実践し、利用者の楽しみや穏やかな生活に繋がっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	家事を行うことが難しくなってきた利用者と一緒にいることでできる何かを見つけ楽しみや役割を、出番を探し提供している	◎	△	◎	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	ファンデーションや口紅など利用者が使う物を把握している				食べこぼしによる衣服の汚れや整容の乱れが見られた場合には、職員はさりげなく汚れを拭き取ったり、居室に誘導して着替えてもらったりするなどの対応をしている。また、排泄後の着衣の乱れは、他の利用者に見えない角度で、さりげなくフォローをしている。さらに、重度な状態の利用者も、起床後は洗面所へ移動し、鏡を見ながら一緒に整容を整えることが日課となっている。現在入居する利用者は、全員が女性で、化粧をしたり、好みの帽子の着用したりするなど、おしゃれを楽しむ利用者も多い。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	利用者個人の個性を尊重している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	着替えに迷う利用者にはさりげなく声掛けし「どっちにする？」と聞いて選んでもらっている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	夏祭りには浴衣を着たり、寒がりの利用者にはカーディガンを一枚羽織ってもらうように支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、ブライドを大切にしたりさげなくカバーしている。（髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等）	◎	ホールではなく居室や洗面所などに誘導して人目につかないよう気をつけている	◎	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	好みの髪形などを理容師さんに伝えている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	洋服に着替える時や・面所での整髪時など、声掛けを行い本人らしさを大切にしている			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	利用者は、食事をとても楽しみにしており、今日のメニューを聞いてきたり、またこちらから伝えたりすると喜ばれる。				配食業者からレシピと食材が届けられ、もやしの根取りやジャガイモの皮むきなどの調理の下ごしらえや後片付けを手伝ってもらいながら、職員がレシピを見て調理をしている。業者の管理栄養士が作成した栄養バランスの取れた献立の食材が届けられているほか、栄養士の資格を持つ職員が利用者の状況に適した物かどうかを確認し、必要に応じて食材の変更依頼やアドバイスをしている。時には、事業所の菜園で収穫した旬の野菜が食卓に上ることもある。現在は、アレルギーのある利用者はいないものの、事前に情報を把握し、代替品を提供するなどの対応をするようになっている。月1回、利用者から好みを聞いて、リクエストメニューを提供したり、週に数回おやつを手作りしたりすることもあり、利用者に喜ばれている。茶碗や湯飲みなどの食器類は、利用者の使い慣れた物を持参して、使用をしている。破損した場合には、家族に連絡して新たなものを用意してもらうとともに、3回程度の破損が続いた場合には、事業所で用意した使いやすい物を使用している。食事の際に、職員は利用者と一緒に食事を摂っていないが、一緒にテーブルに座り、見守りや食事介助等のサポートをしている。訪問調査日には、利用者を急がせることなく、ペース合わせて食事ができるようなサポートも行われていた。また、事業所では主にA棟で食事づくりやB棟でおやつを作りが行われているが、利用者はユニット間を自由に行き来することができ、献立を説明するほか、調理の匂いが漂い、口腔体操等で食事の雰囲気を感じることができるよう工夫している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	庭の野菜を収穫し「何にしたら美味しいか」など一緒に考えたり、じゃがいもの皮むきや、もやしの根切り・栗の皮むきなど喜んで丁寧にやって下さる。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	おやつ作りの時など手伝ってもらうと「私が作ったんよ。」と嬉しそうに言っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握していて、除去したり、好きなものは少し多くおげたりしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	春の木の芽時などは、つくしやふき、たけのご等話しながら下ごしらえを手伝ってもらい取り入れている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。（安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろいろりや器の工夫等）	○	利用者にあわせた調理方法をとっているが視覚も大事と思っているので盛りつけ等工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人の使い慣れた物を持参して頂き使用したり、本人の使いやすいものを使用している。食器はなるべく陶器を使用している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	普段、一緒に食卓を囲むことはないが、側で様子を見守りさり気なくサポートを行っている			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	施設では、重度の方はいないが、今日のメニュー等をお伝えしたり、匂いや音など感じる事を言葉で伝え食事が楽しみになるような雰囲気作りに努めている	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者一人一人違うので軟飯やおかゆ、キザミ食を提供している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	傾眠が強い利用者様がいる場合は、時間をずらして食事を提供している。また、低栄養にならない様に栄養ゼリーなどを用いるなど工夫している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	季節にあったお楽しみ会を実施しており、栄養士の指導の下、お花見や百寿のお祝いの時、お重に詰めて提供したり、ピュッフェで一人ひとりが料理を取ったりする形式を行っている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	少しでも汚れたり、汚れが目立つ所、調理器具をハイターにつけたりして、衛生に努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	職員は口腔ケアの重要性を理解し毎食後の口腔ケアや健康体操時の声出し・食事前の口腔体操を実施している				職員は口腔ケアの重要性を理解し、毎食後に利用者は口腔ケアを実施している。特に自分の歯が残っている利用者には、歯磨きの様子や口腔内を状況を観察するとともに、磨き残しなどのサポートをしている。また、歯ブラシを使用することのできない利用者にはスポンジを使用したり、お茶を飲んでもらったりするなどの対応をしている。さらに、口腔内に異常が見られた場合には、協力歯科医の受診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	義歯に名前を銘記し各人の器保管している。口腔ケア時には見守り必要に応じてお手伝いしている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	「口腔ケアのポイント」を、洗面所に貼りチェックしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後の口腔ケアの支援を行い、夜間入はれ歯洗浄剤を使用し保管している。また、口腔ケアグッズは定期的に洗浄・消毒を行い歯ブラシ交換するなど清潔を保っている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等）	○	口腔ケアの嫌いな人にも声掛けをし、日常的に習慣づくようにしている。口腔ケアの大切さを知ってもらえるよう声掛けしている。定期的な訪問歯科にて口腔内のチェックを行っている			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	出来る限りトイレで排泄できるよう本人に声掛けし介助している。失敗してもさり気なく片づけをしている使用済パット等は、新聞紙に包み、他者にわからないよう工夫をしている。				事業所では、利用者がトイレで排泄できるよう支援している。一定の時間帯による一律のトイレ誘導のみに留まらず、職員は個々の排泄パターンを把握し、利用者の様子を観察しながら、トイレに行きたい時に行けるよう支援している。中には、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。また、利用者の排泄状況に応じて、適切なパッドや紙パンツなどの排泄用品の使用を職員間で検討するとともに、価格を含めて家族等と相談しながら使用をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排便回数を確認し、食事量の変化・摂取水分量を把握。排便の無い人は、野菜摂取・水分の摂取の声掛けを行っている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	◎	トイレの長時間行なっていないひとにさりげなく声掛けをしている。「トイレ空いてるよ・早めに行っておきますか？」				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	◎	オムツを利用している方も、その日の体調によって紙パンツ使用でトイレ誘導するよう努めている。使用の必要性や適切性について常に見直しその人に合った支援を心がけている	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	一日の水分摂取量、食事量の把握。排泄リズムを把握し、食事内容等について栄養士に相談している。薬が必要であれば医師に相談している				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	本人の排泄リズムにあったトイレ誘導をすることによって、失禁をなくす努力をしている。定時にではなく一人ひとりのペースを共有して個別に誘導している				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の気に入った尿吸収パットを利用してもらっている。家族に了解を得て、お試しを利用し、使用してもらっている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	日中、尿失禁の少ない利用者さんは、布パンツ・パットを利用してもらい、夜間紙パンツに交換する方もいる。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	便秘予防の為、牛乳・ココア・ミルミルの提供など個々に合った飲食物を工夫したり、腹部マッサージやや排便体制の助言・健康体操や歩行を促すなど色々な取り組みを行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	◎	個々好む温度を把握し、追い焚き、遅目の声掛け等工夫している。湯船に入れる人には、湯につかってもらい、喜んでもらっている。曜日や時間帯は基本的には決まっているが本人の要望に合わせ支援している	◎		○	基本的に入浴できる曜日や時間帯を決めて、週2回程度、利用者が入浴できるよう支援している。体調等を考慮して、入浴できる日にちや時間帯を変更したり、利用者の希望に応じて、湯の温度や湯船に浸かる時間など、柔軟に対応している。また、入浴剤を使用したり、冬至にはゆず湯にしたりするなど、少しでも利用者が気持ち良く入浴できるような支援にも努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	利用者、1人ひとりに合わせた会話の提供をし、ゆったり、くつろいで入浴できるよう支援できている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人の様子を見ながら、声掛けし出来るところは本人に任せ、見守りしながら安心して入浴できるよう支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	明るく声掛けし、話をしっかり聞き、本人が納得してから入浴できるようにしている。どうしても、気分が乗らない時は、入浴の順番や、日をずらす等、工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	その日の申し送りや、バイタル測定にて、健康状態を確認してから、入浴の可否を決定している。入浴後の状態も確認できている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	利用者、1人ひとりの入眠時間、トイレに起きる時間、起床時間等、24時間の記録にて把握できている。				事業所には眠剤を服用している利用者が数名いるものの、ほとんどの利用者は夜間に良眠することができている。日中に、外気浴をするほか、散歩や体操などを取り入れて活動量を増やすなどの工夫をしているものの、入眠が困難な利用者には、眠たくなるまで職員と一緒に過ごすなどの対応をしている。また、医師や看護師には、利用者の睡眠状況を報告するとともに、適宜指示や助言を受けながら、支援内容を検討している。管理者は、「夜間眠れていない利用者も、24時間のうちにどこかで眠れている」と考え、安易に服薬に頼らず、日々の利用者の体調面に気を配りながら、見守りや観察をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を増やしたり、照明の工夫をする等、1日の生活リズムを整える取り組みを行っている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	介護職員、看護師で日々、支援内容について話し合い、医師とも相談しながら、利用者の体調を考慮し、日々の支援を行なっている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	長時間、話が盛り上がっている利用者や、座りっぱなしの利用者には、声掛けし、自室にて休息を促している				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人からの訴えがあればホームの電話又本人の携帯電話を使用し電話している。季節の節目（暑中見舞いや年賀状）に手紙を出している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	コミュニケーションを図りながら家族さんへ伝えたいこと、思いを引き出し書きとめている。代筆他名前だけ本人に書いて頂く、はがきの装飾など出来ることをして頂いている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	本人からの訴えや不安時にこちらから提案する等本人が電話できる環境をつくっている				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人が読んでいる姿を写真に撮り家族さんへ送っている。可能な方は、返事の手紙を送る。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	お願せずとも電話やお手紙をくれる家族さんが多い。また、本人が寂しさや不安で元気が無い時には、協力をお願いする電話やメールをする事もある				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	使う事の意味や大切さは十分に理解した上で、本人・家族と相談しながら管理している				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	本人からの訴えがあれば必要であれば家族へ許可を頂き代理で購入している。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方向的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金の管理は出来ないが、不安を強く感じられる利用者には、おもちゃのお札を渡し安心に繋げている。基本的には立替になっているが小銭入れに少量の金額を所持して頂くなど一人一人の状態に合わせて支援している				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	必要な物がある場合、家族の相談し、同意を得てから購入している。代金は立替金として、帳簿に記入している。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	○	GH内の金庫にて利用者の財布を預かったり、家族に報告し、返金したりしている。個人の立替金については帳簿にいつ、何を購入したかを明確に記入している。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族の対応が難しい場合、スタッフが通院などに付き添う。今はコロナ等の感染予防の関係で外出は難しいが、コロナが流行する前は、利用者と一緒に買い物に行ったりしていた。	◎		◎	利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で柔軟に対応をしている。基本的に、家族に病院への通院支援をお願いしているが、家族が付き添えない場合には、職員が同行支援することもある。感染対策が続き、一定の制限が設けられ、玄関先での家族等との面会に留まっているが、家族との買い物などの外出希望には、対応できるようになってきている。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	施設が平屋で出来ており、近所の人や家族も出入りしやすい。庭もあり季節の花が咲いている	◎	○	◎	道路に面した事業所には駐車場が整備され、平屋の建物の玄関前にスロープが設置されている。また、玄関アプローチには、ベンチが置かれ、利用者や来訪者はゆっくりとくつろげるようになっている。また、敷地内には花壇や菜園があり、季節の花や野菜が育てられ、手入れが行き届くなど、家庭的で親しみやすい雰囲気を感じられる。

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。）	○	家庭的な環境になるように一般の家庭で使われているような物品を使うようにしている。ホールの壁には季節にあった飾り付けをしている	◎	◎	◎	事業所の建物は、玄関フロアの正面にあるスタッフルームを挟むように、各ユニットの居室が配置されている。ユニットの出入り口は開放され、利用者はユニット間を自由に行き来できるような環境になっている。また、玄関スペースにはウサギのケージが並べられ、飼育されているウサギとの触れ合いは、利用者や家族、職員の癒やしとなっている。さらに、リビングや廊下の壁面には、利用者と一緒に作成したクラフト作品が飾られ、窓から季節の花や野菜が育つ様子が見えるなど、利用者は季節を感じることができる。共用空間の整理整頓や掃除が行き届き、訪問調査日には、不快な音や光、臭いなどは感じられなかった。加えて、吹き抜けのリビングは明るく、テーブル席などに座って、利用者はレクリエーションのほか、洗濯物たたみや季節の作品づくりをしたり、ゆっくりと休憩したりするなど、思い思いに過ごすことができている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	トイレなど臭いが気になる所は消臭スプレーをしたりして臭いが気にならないようにしている			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	平屋で出来ているため、窓から中庭を見ることができ季節感を感じる事が出来る。また野菜を育てているため季節を感じる事が出来る			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	気の合う利用者が会話出来るようにテーブルの配慮が出来ている。また自分の居室でゆったりとした時間を過ごせるよう環境が整っている				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅で使っていた物や大切にしていた物までを持ってきてもらい居室にて管理出来ている	◎		◎	居室にはエアコンやベッド、寝具、チェスト、折りたたみ机、クローゼットが備え付けられている。利用者は使い慣れた家具等を自由に持ち込むことができ、テレビや化粧品、家族写真を配置するなど、居心地良い空間づくりも行われている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者にてできることやわかることを見つけ、見守りや一部介助にて少しでも自立の場面を作っている			◎	職員は利用者の心身状況を把握し、個々の力が発揮できる環境づくりに取り組んでいる。居室の入り口に掛けられた手作りの名札は、利用者の個性的な飾り付けが行われ、居室を間違えないよう工夫している。また、居室内にも、利用者の状況に合わせた家具が配置され、利用者が安心安全にに移動できるようになっている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	△	得意なことを発揮できるように工夫している活け花の道具（花瓶・ハサミ等）の用意 縫い物や雑巾縫い、新聞や週刊誌提供、好きなTV番組の時間を伝え観易い場所を提供する等				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）	◎	代表者及びすべての職員は、玄関に鍵をかける事の弊害を理解しており、居室や各棟の出入り口の鍵はかけていない。玄関の鍵を掛けない事について、不審者などの出入りも想定する必要がある、課題を感じている。	◎	△	◎	職員はユニットの出入り口や玄関に鍵を掛けることの弊害を理解している。日中に玄関の施錠はしておらず、ユニットの出入り口も開放され、利用者はユニット間を自由に行き来できるようになっている。スタッフルームから玄関ホールや各ユニットが見渡せる建物の構造で、職員は利用者や来訪者の出入りに気づきやすく、利用者の希望や状況に応じて、屋外に出て外気浴や花の鑑賞をするなどの対応をしている。訪問調査日にも、玄関が開放され、中庭でレクリエーションを楽しむ利用者の様子を見ることができた。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	安全を優先するために施錠を望む家族はいないが、利用者の居室やトイレなどには、鍵を掛けず利用者の安全を守るよう工夫している				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	利用者に合わせてどのように介助や対応をしていくかを把握しつつ行っている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	利用者の体調の変化などがあれば日々の記録に残している。利用者の表情などを見つつ様子を見ている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になることがあればバイタル測定を行い、看護職に報告し、かかりつけ医などに相談し、入院かどうかを決めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居の際に訪問診療を勧めているため、主治医変更する場合もあるが、2カ所の訪問診療先を選べるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	2カ所の訪問診療先の説明を行い、納得した上で訪問診療を決定している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	家族が通院できない時は、医療連携看護師が付き添い、結果を家族に報告している。臨時で往診した時は受診前後に家族に報告出来ている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	看護・介護情報提供書にて食事形態や介助の方法を詳しく情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	日頃から（訪問診療時等）情報交換や相談をしている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	介護士は、日々の中で少しでも疑問に思ったり、変化があった時は、医療連携看護師に相談できている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	医療連携看護師が待機携帯を持っており、24時間連絡がつくように出来ている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	利用者に合わせて、バイタルサイン測定を行い、異常の早期発見が出来るようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提している。	△	介護スタッフが薬の副作用まで理解出来ていないが、異常時や何か変化があった時は、看護師に相談している。看護師が、家族や医師に相談・報告している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	写真つきの内服確認表を作成し、1回分ずつ個人に分けて管理し、飲み忘れが無いようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用（周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等）がないかの確認を日常的に行っている。	△	利用者の症状が副作用化どうかは分かり難いが、何かあった時は薬による影響ではないかの話し合いをしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時・重度化した場合に、看取りについての確認を家族を中心に行っている。				事業所には、「重度化した場合における（看取り）指針」が整備され、入居時に利用者や家族に説明をしている。また、入居後にも、随時利用者や家族の意向を確認している。さらに、状態の変化が見られた場合には、対応できることなどを説明して意向を再確認するとともに、家族や主治医、関係者を交えて話し合い、方針を共有している。事業所として、「できることやできないこと」を丁寧に説明するとともに、主治医や看護師との連携のもと、職員は安心して看取り支援に取り組むことができている。加えて、看取り支援後の振り返りも行われ、今後のより良い支援に繋げている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化した場合には、家族の意向を踏まえて、訪問診療先の医師や看護師と相談し、終末期カンファレンスを開催し方針を決定している。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	当施設では吸引をできるスタッフが3名の為、常時吸引が必要な利用者は看取りが出来ないため、入院先と退院できるかどうかの確認を行なっている。看取りの後、スタッフの思いを聴き取っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	吸引が必要な場合に、頻回な吸引は出来ない事や、夜間は1人で対応していることを説明し理解してもらっている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	状態が変化した場合、スタッフ間でカンファレンスを行い、更に訪問診療先とも話し合いを持っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	急変・看取り時は居室での面会が出来るようにしている。又、少しでも状態変化時は家族に電話で報告し、家族の思いを聴くようにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染委員や感染委員会をもうけており、社会状況を見ながら対応をとり、早期発見、対応に努めている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	発生時の連絡方法、対処の仕方について話し合い出来ている。5月20日のデモンストレーションを行った。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	△	インターネット等を使用し、把握・注意をうながし感染予防に努めている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤前の手洗い、うがいを徹底出来ている。利用者一人一人ですイスポ手袋を変えてくる。来客者についても検温・来所記録をとっている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族とのライン交換、必要時の状態等、密に連絡出している。家庭状況を把握して一緒に本人について考えていく事を大切にしている				コロナの5類移行後も、感染対策が継続され、面会は玄関先で実施するなどの一定の制限は設けているが、運営推進会議は対面で開催できるようになっている。今年は会議に合わせて、夏祭りなどを同じ日に開催することができ、少しずつ家族同士の交流が図れる機会を持つようになってきている。今秋には庭先での芋炊きを計画していたが、雨天で中止となり、管理者は、「今後も家族が参加できる活動を増やしていきたい」と考えている。また、日常の様子を伝えるために、一人ひとりの利用者に合わせて、掲載する写真を変えた事業所便りを毎月発行するとともに、家族のキーパーソンの送付に合わせて、緊急連絡先に登録している全ての家族等に送付している。さらに、事業所の運営上の事柄や出来事は、事業所便りのほか、2か月に1回、運営推進会議録を全ての家族に送付して報告しており、家族の理解が得られている。加えて、家族の面会時には、管理者や担当職員から日頃の利用者の様子を伝えるなど、コミュニケーションを図りながら、良好な信頼関係の構築に努めている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	運営推進会議にて夏祭り、芋炊きに参加して頂き本人の様子や他の利用者家族との交流の機会をつくっている。	○		○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	月に1回のユニットぐんちゅう便りは個別に作成され送付している。ラインで写真や取った時に本人が言った言葉等を送り日々の様子を伝えコミュニケーションを行っている	○		◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族と本人の関係性をについて理解し、関係性の構築等の支援を行う。会話が難しい方の側にスタッフがそばにつき、家族とコミュニケーションを図れるようにしている。加えて最近の様子を伝えている。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	月に1回送付するユニットぐんちゅう便りで行事等を知らせている。また、二カ月に一回の運営推進会議にて、より細かく状況の報告に努めている	◎		◎	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	契約時に起こり得るリスクについて説明している。日常生活の中での変化はスタッフ間で話し合い管理者や副ホーム長・看護師が説明している				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	日々の生活の出来事は日勤スタッフが、料金がかかる事などの説明は副ホーム長が、医療的な事は看護師が、など、ある一定のスタッフが携わり家族との信頼関係に努めている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時には、契約書に沿って詳しく説明している。納得・同意の上、書面上で契約している。一部は家族控えて保管して頂いている。おむつ代金変更があったが、その理由と変更金額を書面で報告した。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	利用者・家族の意見を聞き相談のうえ次の受け入れが決まってから退去に至っている。トラブル等はない。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域運営推進会議や避難訓練などで事業所の目的や役割などを説明し理解を図っている		○		事業所として、自治会に加入しているものの、管理者は「コロナ禍を経て、地域行事への参加も遠のき、地域住民との関係が希薄になっている」と感じている。2か月に1回の運営推進会議録を届けて、意見交換をしたり、行事食を届けたりするなどの関係構築に努め、会議に近隣住民の参加協力が得られるなど、少しずつ地域との交流を再開している。また、事業所では、地域の訪問理美容や高校生の園芸セラピーを通じた交流は継続されるとともに、地域の秋祭りに子供神輿の来訪もあり、利用者に喜ばれている。管理者は、「今後も自治会との良好な関係を継続していきたい」と考えている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	近隣の方とは、日常の挨拶・秋祭りなど参加しているが働きかけは少ない		◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	コロナ禍を経て、地域の方たちとの関係が気薄になっている				
		d	地域の人気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	△	コロナ禍を経て、地域の方たちとの関係が気薄になっている				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	コロナ禍を経て、地域の方たちとの関係が気薄になっている				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナ禍を経て、地域の方たちとの関係が気薄になっている				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	馴染みの理容師の訪問を受けたり園芸セラピーで伊予農生と触れ合うなど利用者本人が豊かな暮らしを持続することを大切にしている				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	運営推進会には、毎回決まった方の参加が多い。コロナ禍を経て参加人数も減っている	○	/	/	コロナ禍を経て、運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域住民、市担当者等の参加を得て、集合形式の会議が開催できるようになっている。現在、家族の参加は2名程度に留まっているが、毎回違う家族に参加してもらうとともに、利用者にも自由に参加できるように、Aユニットのリビングで会議を開催をしている。会議では、利用者の様子やサービスの実際、サービス評価への取り組み状況等を報告して意見交換するとともに、避難訓練や季節行事等に併せて開催する工夫を行い、事業所運営の理解や協力が得られるように取り組んでいる。また、議事録は会議に参加できなかった全ての家族や関係者に送付している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	意見や結果・議事録を公表しており、用事があり参加できない時でも「これを貰いに来たんよ」と資料を持ち帰ることもある	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	イベントや家族や地域の方が興味がある内容を設定し色々な方に参加してもらえるよう工夫している	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	「悔いの残らないお世話をさせていただきます」を基に「和らかい言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所」をケア目標とし、第二の我が家になるよう、職員皆で日々取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	ぐんちゅう便りに記載したり、玄関・ホールに「理念」「目標」を掲示するなどしている	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	実践者研修・相互研修・リーダー研修・管理者研修などの研修を受けることが出来るよう取り組んでいる	/	/	/	毎月、代表者は事業所への来訪があり、利用者や職員と話す機会を設けている。また、法人・事業所として、職員の資格取得に向けて費用を助成したり、有給休暇の取得を促したりするなど、職員のスキルアップや働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。さらに、年2回代表者は職員との個別面談を実施し、職員から意見や提案を聞いて検討し、利用者への支援や事業所運営に反映するよう努めている。加えて、代表者と管理者、職員との相互の信頼関係が築かれ、離職率は低く、長年勤務する職員も多い。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	スキルアップに必要な資格取得に必要な費用など会社が一部負担してくれている。主になる資格取得には勤務調整・全額負担など行うこともある。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年に二回の自己評価や毎月の管理者会での情報等を元に職員個々の勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう職場の環境条件を整備している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	一般社団法人愛媛県地域密着型サービス協会に加入し相互研修等参加している 市内のグループホーム・ネットワークに参加し、連絡会・研修会に参加している	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	休日希望・有給休暇や個々の職員の個性や特技などが生かせる様な職場づくりをしている	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	年間計画で高齢者虐待防止について学んでいる。また、認知症ケアの勉強会を行い虐待や不適切ケアを意識する事で抑止力に繋がりに見過ごすことの無い環境をつくっている	/	/	◎	定期的に、職員は研修の中で虐待防止や認知症ケアを学び、理解を深めている。全ての職員は虐待や不適切なケアが起こらないように、意識した言動を心がけるとともに、職員同士でも見逃さないようにしている。時には、不適切な言動が見られ、管理者は「みんなで考えて、気をつけていこうね」などと声をかけ、個別に該当職員と話し合うようにしている。訪問調査日には、職員同士の思いやりや感謝の言葉も聞かれ、利用者のほか、外国人の技能実習生への眼差しや声かけは優しく、安心した穏やかな生活にも繋がっている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々のケアでの振り返りを行い、どのようにしていくべきかの話し合いをつくっている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常業務の中でストレス・や疲労を感じている場面や言動はないか、ご利用者への対応・言葉づかいや表情はどうか観察・注意を払っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員全員と話し合い、正しく理解し行なっている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束・虐待防止員会を4回／年 勉強会を2回／年 行い利用者の現状に照らし合わせ話し合っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	拘束や施錠の要望はないが、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	勉強会をしつつ、学び、どのような制度での違いなどを含め理解したうえでパンフレットなどで説明をするなどを行い、支援を行っている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関（社会福祉協議会、後見センター、司法書士等）との連携体制を築いている。	△	二ヵ月に一回の地位包括支援センターへの訪問など連携に努めている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故発生時に備え対応マニュアルを作成し周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	消防署での勉強会に参加したり、看護師の指導を受けるなど実践力を身に着けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故に繋がりそうな小さなこともインシデント・アクシデントにまとめている。毎月の安全委員会で話し合い改善策をとっている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	転倒リスクアセスメントや安全委員会にてリスクや危険について検討し事故防止に努めている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応についての研修を行っている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情は寄せられていないが速やかに手順に沿って対応できるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情は寄せられていないが速やかに手順に沿って対応できるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）	○	法人・事業所の相談窓口の設定や推進会議・日常的に話を聞く機会を設けている	◎		◎	日々会話の中で、職員は利用者から意見や要望を聞き取っている。来訪時には、積極的に職員から家族等に声をかけて、利用者の近況を伝えて、意見や意向を聞くようにしている。中には、必要に応じて、SNSのLINEを活用して、連絡を取り合う家族もいる。また、日々の業務の中で、管理者は職員から意見や提案を聞くほか、定期的に実施するカンファレンスや安全委員会の中で、職員から意見や提案等も出されている。管理者は、「会議でより良い支援に向けた前向きな議論が行われている」と感じている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	法人事業所の相談窓口があるが、個別に伺う機会が多い。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は月に1回以上現場に足を運び直接職員とコミュニケーションを取り意見や要望を聞いている				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日頃から、職員一人一人とのコミュニケーションに勤めると共に、自己評価や面談により多くの意見や提案を聴く機会を持ち、常に一緒に利用者本位について考えている			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を理解し、年に1回自己評価に取り組んでいる。				毎年、全ての職員で自己評価に取り組むとともに、外部評価のサービスの評価結果を踏まえて、目標達成計画を作成している。また、評価結果や目標達成計画は、運営推進会議の中で、市担当者や地域包括支援センターの職員、会議の参加メンバーに報告し、意見をもらいながら目標達成に向けて取り組んでいる。今後は、家族等に目標達成の取り組み状況のモニターに協力してもらうなど、出された意見を職員間で検討するとともに、サービスの向上に繋げていくことを期待したい。
		b	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	職員は、自己評価を通して事業所の現状を見つめ直し、課題を明確にして意識統一している。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	結果を踏まえ目標達成計画を作成し、事業所全体で取り組み継続している	○	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	評価結果と目標達成計画は、地域運営推進会議にて、家族・市役所・地域内法支援センター他各責任者に報告している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	様々な災害時の対応マニュアルがスタッフルームに置いており。全職員が周知出来るようにしている。				年2回避難訓練を実施するとともに、2～3か月に1回防災会議を開催し、災害に備えて話し合いをしている。また、事業所内の間取りや防災計画等を運営推進会議の参加メンバーや家族に送付し、家族や地域住民に災害の備えに対して、理解を得られるように努めている。感染対策を緩和し、現在は地域住民や家族の参加協力を得て、会議に合わせて避難訓練や消火訓練を開催することができている。事業所はハザードマップや土砂災害の警戒区域には指定されない地域に立地しているため、災害発生時に無理に動いて移動しないとの考えから、近隣住民にも役立てられるように、多めのミスや食料などの備蓄品を用意している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画している。	○	年2回の避難訓練は、消防署立会いの下で行っている。火災時の地震時の避難訓練(昼間・夜間の想定)ができた				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に消火設備、避難経路、非常食の食糧や物品の点検を行っている。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	推進会議や避難訓練など日頃から地域住民や話し合いや訓練の場を持ち協力支援体制を確保している	○	◎	◎	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	県民総ぐるみ地震防災訓練「シェイクアウトえひめ」に参加したり、他事業所と災害を想定した訓練を行っている				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	伊予市長寿介護課主催で行なわれるチームオレンジ定例会に参加し認知症ケアについて深く学び啓発活動等に取り組んでいる				事業所は、市のボランティアグループ「チームオレンジ」に所属し、職員は認知症や介護保険制度の学びを深めるとともに、利用者や家族への相談支援ができる体制を整えている。また、市行政や地域包括支援センター、法人内のグループホームなどの関係機関と、平時から連携を図ることができている。感染対策の収束後には、積極的にチームオレンジなどの地域活動やイベントなどに協力していくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	普段から相談連絡に対応できるようスタッフ間認知症についてや介護保険の仕組みについて勉強している		×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	バザーや芋炊きなど地域の人たちが集まれる場所として事業所を解放している				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	高校生園芸セラピー実習等の受け入れに協力している				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	市町や地域包括支援センター、他の事業所等、地域活動を行っていない			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 11 月 13 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3871000190
事業所名	ユニットぐんちゅう
(ユニット名)	B棟
記入者(管理者)	
氏 名	森田みずほ
自己評価作成日	令和 6 年 9 月 26 日

(別表第1の2)

【事業所理念】 和らかい言葉 温かい雰囲気 安心できる居場所	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 日常生活の中で「できること・できそうな事」を、一緒に行っていく,または,見守っていくことができる OBPSDワークシートを使用し認知症になっても本人が自分らしく生活できる事を探しケアプランに盛り込んでいる 地域の活動や行事に進んで参加することができ ○伊予農生の研究発表のためのアンケート調査等などの協力	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 平屋建ての事業所の敷地内には、花壇に季節ごとの花が植えられ、菜園に季節の野菜が栽培され、利用者は成長や収穫を楽しみにしている。道路に面した開放的な玄関先は、家族や地域住民が出入りしやすい雰囲気が感じられる。定期的に、内部研修を実施し、職員間で認知症の理解を深め、利用者の不安を取り除きながら、より良いサービスの提供に努めている。また、一人ひとりの利用者のできることやできそうなことを探し出して、楽しみや役割、出番を提供するほか、日々の暮らしの中で、利用者の自由な選択を尊重した支援を実践している。さらに、宅配業者から食材が届けられ、事業所内で職員がレシピを見ながら調理するとともに、栄養士の資格を持つ職員が利用者の状況に適した物かどうかの献立内容を確認し、随時献立の変更依頼をするなど、利用者により良い食事が提供されるよう配慮している。月1回、利用者から好みを聞いて、リクエストメニューを提供したり、週に数回はおやつを手作りしたりすることもあり、利用者に喜ばれている。事業所の菜園では、地域の高校生の園芸セラピーの実習を受け入れて、高校生との交流を図るとともに、菜園で旬の野菜を収穫し、食卓に上ることもある。加えて、代表者は毎月事業所に来訪があり、職員の意見や希望を聞くほか、職員のスキルアップや資格取得にも協力的で、職員が向上心を持って働けるような環境づくりに取り組んでいる。代表者や管理者、職員の相互の信頼は厚く、利用者のほか、外国人の技能実習生への眼差しや声かけは優しく、安心した穏やかな生活にも繋がっている。
---	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	話されている事・やりたそうな事を見逃さないように心がけている	◎		◎	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、思いや暮らし方の希望、意向などを聞き取り、フェースシートに記載して職員間で共有している。入居後にも、日々の生活の中で、利用者から思いや希望を把握するように努めている。新たに把握した情報は赤字で追記するとともに、1年に1回程度、フェイスシートなどの情報を更新している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	基本的に個別性を大切にし「本人はどうか」と意識している				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会の時など、利用者の家族や友人と本人のこれまでの生活や今の状況などを話している				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人が話したことや行っていることを日々の記録に残し共有している				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	「○○しますか?」「○○しませんか?」とまず聞くようにしている				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前から本人や家族に色々な面での話を聞きアセスメントしている。入居後も毎日の生活の中で情報収集を行い家族との連携に努めている			◎	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、フェースシートやアセスメントシートを活用して、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわり、生活環境等の聞き取りをしている。また、入居前に関わりのあった病院や施設の担当者から情報を収集するとともに、担当していた介護支援専門員からサービス利用の経過等の情報を提供してもらうこともある。さらに、入居後に得られた新たな情報は、アセスメントシートなどに追記し、申し送りなどを活用して職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	生活の中で本人の体調・様子を見ながら「出来ること」「出来そうな事」の現状の把握に努めている				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	その日のバイタル・会話・行動等、観察をし利用者の状態の把握に努めている				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	日々の生活の様子を見て、コミュニケーションをとりながら本人が求めている事・必要としている事を理解しようと努め検討している			◎	日々の会話や暮らしの様子から、職員は利用者の状態の把握に努めるとともに、家族から意見や意向を確認している。また、医師や看護師、薬剤師等の意見も踏まえて、定期的にカンファレンスを実施し、何を求めて必要としているのかを利用者の視点で検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	定期的にカンファレンスを行い本人にあった暮らしが出来るよう課題の把握に努めている				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日々の生活や会話・言動を大切にし、本人の思いや意向を反映する為の支援になるよう努めている				毎月実施するカンファレンスでの検討事項のほか、3か月に1回利用者ごとの担当職員がモニタリングした評価に基づき、計画作成担当者が介護計画の原案を作成するとともに、担当者会議の中で検討をしている。また、会議で出された意見やアイデアを反映して、計画の原案を修正するとともに、利用者や家族に計画を説明して、了承を得ている。訪問調査日には、利用者の意見を反映するとともに、課題解決に向けた個別性のある計画作成を確認することができた。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人は日々の生活の様子や会話で、家族とは面会時等コミュニケーションに努め意見やアイデアを気軽に出し合える関係を作り反映できるよう努めている	○		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意思疎通の難しい方に対してもこれまでの生活や思いや意向を理解しようと努め安心して穏やかに過ごせる内容になるように努めている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	友人や知人・家族等の協力を盛り込んだ内容がある				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	モニタリング・カンファレンスにて介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している	/	/	○	介護計画は、利用者の個別の担当者会議で検討され、職員間で内容を共有するとともに、ファイルに綴じられ、職員はいつでも計画を確認できるようにしている。また、介護計画に沿った支援の実践や評価は、内容により介護記録で確認することができるほか、月1回のカンファレンスや、3か月に1回のモニタリングの評価を通じて、情報を共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	本人の言葉や行動・出来事など生活の様子を日々具体的に記録し、モニタリングやカンファレンスを定期的に行い職員間で状況確認を行い日々の支援につなげている	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	利用者の介護によって見直したり改善したりしており、その人にあったケアプランを行っている	/	/	◎	概ね6か月に1回介護計画の見直しをしている。また、新たな要望や変化が見られない場合にも、毎月のカンファレンスで、利用者の状況を確認するとともに、3か月に1回モニタリングを行い、評価を残している。さらに、利用者の心身の状況に変化が生じた場合には、必要に応じて関係者で話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	利用者によって一つ一つの変化が見られない場合は現状確認を行ったり見直しを行っている	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人の暮らしにあったケアプランを計画し家族などとの連携をして新たなケアプランなどの作成を行っている	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	BPSDのワークシートを使用し定期的にカンファレンスをしている。課題は内容や場面によってその都度必要なメンバーで話し合いを行う	/	/	○	ユニットごとに、朝夕の申し送りを実施し、利用者の情報共有を図っている。月1回カンファレンスを実施して、利用者の現状等を確認するとともに、ユニット合同で安全委員会を開催して、利用者の個別の状況や事業所の出来事等の共有を図り、その時々課題解決に向けた話し合いをしている。また、緊急案件が生じた場合には、その日の出勤職員で話し合い、迅速に対応をしている。さらに、多くの職員が参加できる時間帯に会議を開催するほか、会議に参加できない職員には事前に意見を聞くとともに、終了後に議事録の確認してもらい、サインを残すことで情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	普段から考えや気持ちを確認したり意見交換できる環境を目指している	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	内容によって話し合う場面も変わってくるが必要に応じて共有できる工夫を行っている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝夕の申し送りのときや内容や場面に応じて申し送りノート・付箋・メモを使い情報の共有に努めている	◎	/	○	介護記録や申し送りノートを確認しながら、ユニットごとに、朝夕の申し送りを口頭で実施している。出勤前に申し送りノートを確認し、確認後に職員はサインを残すとともに、必要な事柄は各自で別途メモを取るなど、確実に情報共有に努めている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	個別性を大切にしているが、引きこもり気味や知訥のことに集中してしまうときなどは助言と一緒に行えることを提供している	/	/	/	朝の体操や口腔ケアなど、事業所の日課として継続して行われているが、基本的に職員は利用者の自由な選択や自己決定を尊重し、洋服選びや外出先、日々の活動など、生活の様々な場面で、職員は声をかけて利用者の意見を聞き、生活の中に取り入れるようにしている。また、職員は利用者が笑顔で過ごせるように、利用者の好みの話題や安心するような話題提供を心がけ、表情を観察する眼差しや声かけは優しく、笑顔で接している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	日々の暮らしの中、利用者の言動、表情などを観察し本人の希望を大切にしている	/	/	◎	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	本人のペースとタイミングに合わせて習慣を大切に支援している。夜に入浴したい方にも状況を説明しながらも本人が納得できるような声掛け誘導に努める等、なるべく決まりや都合を優先していると感じて頂かない様に気を付けている	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	優しい言葉がけを行い、少しずつ関わりを大切にする。本人の表情に気を付け、笑顔で雰囲気作りに努めている。	/	/	◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	意思疎通が困難であってもきちんと利用者の目を見て優しく声掛けし、小さな頷きにもしっかりキャッチしている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	◎	定期的に研修を受けており常に意識をしながら対応できている	○	○	◎	研修等を通して、職員は認知症ケアの学びを深めている。カンファレンスなどを活用して、管理者は職員への利用者のプライバシー保護や虐待防止の周知徹底を図るとも、定期的に気になることなどの話し合いをしている。また、長年勤務している職員が多く、利用者との信頼関係ができた上で、親しみを込めて、馴れ馴れしく接する場面も見られるが、家族にも理解を得ながら、利用者を尊重した言葉遣いなどが行われている。さらに、利用者の希望に応じて、ちゃん付けで呼ばれている利用者もいるが、人格否定をすることなく、周囲から頼りにされ、親しみのある呼称となっている。加えて、利用者の居室は基本的に閉められているが、中には、利用者の希望で開放している居室もある。訪問調査日には、職員が居室に入る場面が見られ、事前に利用者に声をかけ、了承を得てから入室する様子が見ることができた。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	カーテンを閉めたり扉を閉める、また必要に応じてタオルをかける等配慮している	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室へ入る時はノックしたり声掛けしてから出入りするようにしている	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	定期的に研修を受けており理解し遵守している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	お盆拭き、洗濯物をハンガーにかけたりスタッフと一緒に外まで干しに行っている				職員は利用者一人ひとりの性格や能力、関係性を把握するとともに、日頃から目配りをした見守りをしている。トラブルが起こりそうな場合には、職員が早期に間に入るとともに、必要に応じて、配席を変更するなどの対応をしている。また、世話好きな利用者に頼りながら、孤立しがちな他の利用者と交わえるように、関係を取り持つようにしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	スタッフは利用者の様子を観察し必要に応じて間に入ったり、できそうなことを一緒に行うなど場面づくりをしている				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	利用者同士の関係を把握し早めに対応し、席の配慮を替えたり、利用者が孤立にならないよう支援に努める			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルに対してはスタッフ間で早めに情報を共有し、利用者が不安にならないよう対応に努めている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前の生活状況(アセスメント)にも注目し、本人と家族などスタッフ間で情報共有している。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	知人の方の訪問、ミニ情報持参で本人との関わりを大切にしている馴染みの美容室を利用し、楽しい時間に努めている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	あじさい見学や動物園など季節に合わせてのドライブやつくし採りや神社散歩・庭の散策など、お天気や体調に合わせて都外に出る事をしている	○	○	○	コロナ禍や猛暑を経て、外出しやすい気持ち良い季節となり、日常的に近隣にある神社まで散歩したり、庭に出て、外気浴をしたりするなど、屋外に過ごす機会も多くなってきている。また、近隣にある法人内の他事業所から車を借りて、ドライブに出かけることは、利用者に喜ばれている。訪問調査日にも、庭に出てレクリエーションで歌を楽しむ利用者の様子を見ることができた。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ感染予防の為、現在、実施できていないが、以前は、地域の方と、いちご狩り、芋炊き等、外出できていた。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	定期的に内部研修を行い、認知症について理解を深め、職員同士、カンファレンス等にて話し合い、利用者の不安を取り除くケアを行なっている。				研修等を通じて、職員は認知症の進行に伴う心身機能の低下を理解し、少しでも利用者のできることやできそうなのが継続できるよう支援している。握力の低下により、食器を持って食べにくくなった利用者には、小さなお皿に小分けしておかずなどを提供し、自分で食べられるよう工夫している。また、調理の下ごしらえや洗濯物たたみなど、利用者の能力に応じた環境を整えている。さらに、できることは時間が掛かっても、利用者自身にしてみらい、職員はできるだけ手や口を出さずに待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	食時前に、利用者全員で口腔体操を行なったり、嚥下機能が低下している利用者に対しては、個別にてアイスマッサージを行うなど、取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	野菜の皮むきや、洗濯物たたみ等の手伝いの他、多少、時間がかかっても、更衣や自力摂取できるよう見守っている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	編み物や、縫い物、写経や花の水やり等、利用者それぞれの、得意なことや楽しみを把握できている。				職員は利用者一人ひとりの得意なことや楽しみを把握し、高齢化や重度化が進行しても、洗濯物たたみやテーブル拭きなどの役割が担えるよう支援している。一人ひとりの利用者のできることやできそうなことを探し出して、楽しみや役割、出番を提供するほか、日々の暮らしの中で、利用者の自由な選択を尊重した支援を実践し、利用者の楽しみや穏やかな生活に繋がっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	家事を行うことが難しくなってきた利用者と一緒にいることでできる何かを見つけ楽しみや役割を、出番を探し提供している	◎	△	◎	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	ファンデーションや口紅など利用者が使う物を把握している				食べこぼしによる衣服の汚れや整容の乱れが見られた場合には、職員はさりげなく汚れを拭き取ったり、居室に誘導して着替えてもらったりするなどの対応をしている。また、排泄後の着衣の乱れは、他の利用者に見えない角度で、さりげなくフォローをしている。さらに、重度な状態の利用者も、起床後は洗面所へ移動し、鏡を見ながら一緒に整容を整えることが日課となっている。現在入居する利用者は、全員が女性で、化粧をしたり、好みの帽子の着用したりするなど、おしゃれを楽しむ利用者も多い。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	利用者個人の個性を尊重している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	着替えに迷う利用者にはさりげなく声掛けし「どっちにする？」と聞いて選んでもらっている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	夏祭りには浴衣を着たり、寒がりの利用者にはカーディガン一枚羽織ってもらうように支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、ブライドを大切にしたりさげなくカバーしている。（髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等）	◎	ホールではなく居室や洗面所などに誘導して人目につかないよう気をつけている	◎	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	好みの髪形などを理容師さんに伝えている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	洋服に着替える時や・面所での整髪時など、声掛けを行い本人らしさを大切にしている			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	利用者は、食事をとても楽しみにしており、今日のメニューを聞いてきたり、またこちらから伝えたりすると喜ばれる。				配食業者からレシピと食材が届けられ、もやしの根取りやジャガイモの皮むきなどの調理の下ごしらえや後片付けを手伝ってもらいながら、職員がレシピを見て調理をしている。業者の管理栄養士が作成した栄養バランスの取れた献立の食材が届けられているほか、栄養士の資格を持つ職員が利用者の状況に適した物かどうかを確認し、必要に応じて食材の変更依頼やアドバイスをしている。時には、事業所の菜園で収穫した旬の野菜が食卓に上ることもある。現在は、アレルギーのある利用者はいないものの、事前に情報を把握し、代替品を提供するなどの対応をするようになっている。月1回、利用者から好みを聞いて、リクエストメニューを提供したり、週に数回おやつを手作りしたりすることもあり、利用者に喜ばれている。茶碗や湯飲みなどの食器類は、利用者の使い慣れた物を持参して、使用している。破損した場合には、家族に連絡して新たなものを用意してもらうとともに、3回程度の破損が続いた場合には、事業所で用意した使いやすい物を使用している。食事の際に、職員は利用者と一緒に食事を摂っていないが、一緒にテーブルに座り、見守りや食事介助等のサポートをしている。訪問調査日には、利用者を急がせることなく、ペース合わせて食事ができるようなサポートも行われていた。また、事業所では主にA棟で食事づくりやB棟でおやつを作りが行われているが、利用者はユニット間を自由に行き来することができ、献立を説明するほか、調理の匂いが漂い、口腔体操等で食事の雰囲気を感じることができるよう工夫している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	庭の野菜を収穫し「何にしたら美味しいか」など一緒に考えたり、じゃがいもの皮むきや、もやしの根切り・栗の皮むきなど喜んで丁寧にやって下さる。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	おやつ作りの時など手伝ってもらうと「私が作ったんよ。」と嬉しそうに言っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握していて、除去したり、好きなものは少し多くおげたりしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	春の木の芽時などは、つくしやふき、たけのご等話しながら下ごしらえを手伝ってもらい取り入れている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。（安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろいろりや器の工夫等）	○	利用者にあわせた調理方法をとっているが視覚も大事と思っているので盛りつけ等工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人の使い慣れた物を持参して頂き使用したり、本人の使いやすいものを使用している。食器はなるべく陶器を使用している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	普段、一緒に食卓を囲むことはないが、側で様子を見守りさり気なくサポートを行っている			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	施設では、重度の方はいないが、今日のメニュー等をお伝えしたり、匂いや音など感じる事を言葉で伝え食事が楽しみになるような雰囲気作りに努めている	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者一人一人違うので軟飯やおかゆ、キザミ食を提供している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	傾眠が強い利用者様がいる場合は、時間をずらして食事を提供している。また、低栄養にならない様に栄養ゼリーなどを用いるなど工夫している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	季節にあったお楽しみ会を実施しており、栄養士の指導の下、お花見や百寿のお祝いの時、お重に詰めて提供したり、ピュッフェで一人ひとりが料理を取ったりする形式を行っている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	少しでも汚れたり、汚れが目立つ所、調理器具をハイターにつけたりして、衛生に努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	職員は口腔ケアの重要性を理解し毎食後の口腔ケアや健康体操時の声出し・食事前の口腔体操を実施している				職員は口腔ケアの重要性を理解し、毎食後に利用者は口腔ケアを実施している。特に自分の歯が残っている利用者には、歯磨きの様子や口腔内を状況を観察するとともに、磨き残しなどのサポートをしている。また、歯ブラシを使用することのできない利用者にはスポンジを使用したり、お茶を飲んでもらったりするなどの対応をしている。さらに、口腔内に異常が見られた場合には、協力歯科医の受診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	義歯に名前を銘記し各人の器保管している。口腔ケア時には見守り必要に応じてお手伝いしている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	「口腔ケアのポイント」を、洗面所に貼りチェックしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後の口腔ケアの支援を行い、夜間入はれ歯洗浄剤を使用し保管している。また、口腔ケアグッズは定期的に洗浄・消毒を行い歯ブラシ交換するなど清潔を保っている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等）	○	口腔ケアの嫌いな人にも声掛けをし、日常的に習慣づくようにしている。口腔ケアの大切さを知ってもらえるよう声掛けしている。定期的な訪問歯科にて口腔内のチェックを行っている			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	出来る限りトイレで排泄できるよう本人に声掛けし介助している。失敗してもさり気なく片づけをしている使用済パット等は、新聞紙に包み、他者にわからないよう工夫をしている。				事業所では、利用者がトイレで排泄できるよう支援している。一定の時間帯による一律のトイレ誘導のみに留まらず、職員は個々の排泄パターンを把握し、利用者の様子を観察しながら、トイレに行きたい時に行けるよう支援している。中には、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。また、利用者の排泄状況に応じて、適切なパッドや紙パンツなどの排泄用品の使用を職員間で検討するとともに、価格を含めて家族等と相談しながら使用をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排便回数を確認し、食事量の変化・摂取水分量を把握。排便の無い人は、野菜摂取・水分の摂取の声掛けを行っている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	◎	トイレの長時間行なっていないひとにさりげなく声掛けをしている。「トイレ空いてるよ・早めに行っておきますか？」				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	◎	オムツを利用している方も、その日の体調によって紙パンツ使用でトイレ誘導するよう努めている。使用の必要性や適切性について常に見直しその人に合った支援を心がけている	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	一日の水分摂取量、食事量の把握。排泄リズムを把握し、食事内容等について栄養士に相談している。薬が必要であれば医師に相談している				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	本人の排泄リズムにあったトイレ誘導をすることによって、失禁をなくす努力をしている。定時にではなく一人ひとりのペースを共有して個別に誘導している				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の気に入った尿吸収パットを利用してもらっている。家族に了解を得て、お試しを利用し、使用してもらっている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	日中、尿失禁の少ない利用者さんは、布パンツ・パットを利用してもらい、夜間紙パンツに交換する方もいる。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	便秘予防の為、牛乳・ココア・ミルミルの提供など個々に合った飲食物を工夫したり、腹部マッサージやや排便体制の助言・健康体操や歩行を促すなど色々な取り組みを行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	◎	個々好む温度を把握し、追い焚き、遅目の声掛け等工夫している。湯船に入れる人には、湯につかってもらい、喜んでもらっている。曜日や時間帯は基本的には決まっているが本人の要望に合わせ支援している	◎		○	基本的に入浴できる曜日や時間帯を決めて、週2回程度、利用者が入浴できるよう支援している。体調等を考慮して、入浴できる日にちや時間帯を変更したり、利用者の希望に応じて、湯の温度や湯船に浸かる時間など、柔軟に対応している。また、入浴剤を使用したり、冬至にはゆず湯にしたりするなど、少しでも利用者が気持ち良く入浴できるような支援にも努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	利用者、1人ひとりに合わせた会話の提供をし、ゆったり、くつろいで入浴できるよう支援できている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人の様子を見ながら、声掛けし出来るところは本人に任せ、見守りしながら安心して入浴できるよう支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	明るく声掛けし、話をしっかり聞き、本人が納得してから入浴できるようにしている。どうしても、気分が乗らない時は、入浴の順番や、日をずらす等、工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	その日の申し送りや、バイタル測定にて、健康状態を確認してから、入浴の可否を決定している。入浴後の状態も確認できている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	利用者、1人ひとりの入眠時間、トイレに起きる時間、起床時間等、24時間の記録にて把握できている。				事業所には眠剤を服用している利用者が数名いるものの、ほとんどの利用者は夜間に良眠することができている。日中に、外気浴をするほか、散歩や体操などを取り入れて活動量を増やすなどの工夫をしているものの、入眠が困難な利用者には、眠たくなるまで職員と一緒に過ごすなどの対応をしている。また、医師や看護師には、利用者の睡眠状況を報告するとともに、適宜指示や助言を受けながら、支援内容を検討している。管理者は、「夜間眠れていない利用者も、24時間のうちにどこかで眠れている」と考え、安易に服薬に頼らず、日々の利用者の体調面に気を配りながら、見守りや観察をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を増やしたり、照明の工夫をする等、1日の生活リズムを整える取り組みを行っている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	介護職員、看護師で日々、支援内容について話し合い、医師とも相談しながら、利用者の体調を考慮し、日々の支援を行なっている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	長時間、話が盛り上がっている利用者や、座りっぱなしの利用者には、声掛けし、自室にて休息を促している				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人からの訴えがあればホームの電話又本人の携帯電話を使用し電話している。季節の節目（暑中見舞いや年賀状）に手紙を出している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	コミュニケーションを図りながら家族さんへ伝えたいこと、思いを引き出し書きとめている。代筆他名前だけ本人に書いて頂く、はがきの装飾など出来ることをして頂いている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	本人からの訴えや不安時にこちらから提案する等本人が電話できる環境をつくっている				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人が読んでいる姿を写真に撮り家族さんへ送っている。可能な方は、返事の手紙を送る。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	お願せずとも電話やお手紙をくれる家族さんが多い。また、本人が寂しさや不安で元気が無い時には、協力をお願いする電話やメールをする事もある				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	使う事の意味や大切さは十分に理解した上で、本人・家族と相談しながら管理している				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	本人からの訴えがあれば必要であれば家族へ許可を頂き代理で購入している。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方向的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金の管理は出来ないが、不安を強く感じられる利用者には、おもちゃのお札を渡し安心に繋げている。基本的には立替になっているが小銭入れに少量の金額を所持して頂くなど一人一人の状態に合わせて支援している				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	必要な物がある場合、家族の相談し、同意を得てから購入している。代金は立替金として、帳簿に記入している。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	○	GH内の金庫にて利用者の財布を預かったり、家族に報告し、返金したりしている。個人の立替金については帳簿にいつ、何を購入したかを明確に記入している。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族の対応が難しい場合、スタッフが通院などに付き添う。今はコロナ等の感染予防の関係で外出は難しいが、コロナが流行する前は、利用者と一緒に買い物に行ったりしていた。	◎		◎	利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で柔軟に対応をしている。基本的に、家族に病院への通院支援をお願いしているが、家族が付き添えない場合には、職員が同行支援することもある。感染対策が続き、一定の制限が設けられ、玄関先での家族等との面会に留まっているが、家族との買い物などの外出希望には、対応できるようになってきている。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	施設が平屋で出来ており、近所の人や家族も出入りしやすい。庭もあり季節の花が咲いている	◎	○	◎	道路に面した事業所には駐車場が整備され、平屋の建物の玄関前にスロープが設置されている。また、玄関アプローチには、ベンチが置かれ、利用者や来訪者はゆっくりとくつろげるようになっている。また、敷地内には花壇や菜園があり、季節の花や野菜が育てられ、手入れが行き届くなど、家庭的で親しみやすい雰囲気を感じられる。

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。）	○	家庭的な環境になるように一般の家庭で使われているような物品を使うようにしている。ホールの壁には季節にあった飾り付けをしている	◎	◎	◎	事業所の建物は、玄関フロアの正面にあるスタッフルームを挟むように、各ユニットの居室が配置されている。ユニットの出入り口は開放され、利用者はユニット間を自由に行き来できるような環境になっている。また、玄関スペースにはウサギのケージが並べられ、飼育されているウサギとの触れ合いは、利用者や家族、職員の癒やしとなっている。さらに、リビングや廊下の壁面には、利用者と一緒に作成したクラフト作品が飾られ、窓から季節の花や野菜が育つ様子が見えるなど、利用者は季節を感じる事ができる。共用空間の整理整頓や掃除が行き届き、訪問調査日には、不快な音や光、臭いなどは感じられなかった。加えて、吹き抜けのリビングは明るく、テーブル席などに座って、利用者はレクリエーションのほか、洗濯物たたみや季節の作品づくりをしたり、ゆっくりと休憩したりするなど、思い思いに過ごすことができてい
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	トイレなど臭いが気になる所は消臭スプレーをしたりして臭いが気にならないようにしている			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	平屋で出来ているため、窓から中庭を見ることができ季節感を感じる事が出来る。また野菜を育てているため季節を感じる事が出来る			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	気の合う利用者が会話出来るようにテーブルの配慮が出来ている。また自分の居室でゆったりとした時間を過ごせるよう環境が整っている				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅で使っていた物や大切にしていた物までを持ってきてもらい居室にて管理出来ている	◎		◎	居室にはエアコンやベッド、寝具、チェスト、折りたたみ机、クローゼットが備え付けられている。利用者は使い慣れた家具等を自由に持ち込むことができ、テレビや化粧品、家族写真を配置するなど、居心地良い空間づくりも行われている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者にてできることやわかることを見つけ、見守りや一部介助にて少しでも自立の場面を作っている			◎	職員は利用者の心身状況を把握し、個々の力が発揮できる環境づくりに取り組んでいる。居室の入り口に掛けられた手作りの名札は、利用者の個性的な飾り付けが行われ、居室を間違えないよう工夫している。また、居室内にも、利用者の状況に合わせた家具が配置され、利用者が安心安全にに移動できるようになっている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	△	得意なことを発揮できるように工夫している活け花の道具（花瓶・ハサミ等）の用意 縫い物や雑巾縫い、新聞や週刊誌提供、好きなTV番組の時間を伝え観易い場所を提供する等				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）	◎	代表者及びすべての職員は、玄関に鍵をかける事の弊害を理解しており、居室や各棟の出入り口の鍵はかけていない。玄関の鍵を掛けない事について、不審者などの出入りも想定する必要がある、課題を感じている。	◎	△	◎	職員はユニットの出入り口や玄関に鍵を掛けることの弊害を理解している。日中に玄関の施錠はしておらず、ユニットの出入り口も開放され、利用者はユニット間を自由に行き来できるようになっている。スタッフルームから玄関ホールや各ユニットが見渡せる建物の構造で、職員は利用者や来訪者の出入りに気づきやすく、利用者の希望や状況に応じて、屋外に出て外気浴や花の鑑賞をするなどの対応をしている。訪問調査日にも、玄関が開放され、中庭でレクリエーションを楽しむ利用者の様子を見ることができた。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	安全を優先するために施錠を望む家族はいないが、利用者の居室やトイレなどには、鍵を掛けず利用者の安全を守るよう工夫している				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	利用者に合わせてどのように介助や対応をしていくかを把握しつつ行っている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	利用者の体調の変化などがあれば日々の記録に残している。利用者の表情などを見つつ様子を見ている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になることがあればバイタル測定を行い、看護職に報告し、かかりつけ医などに相談し、入院かどうかを決めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居の際に訪問診療を勧めているため、主治医変更する場合もあるが、2カ所の訪問診療先を選べるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	2カ所の訪問診療先の説明を行い、納得した上で訪問診療を決定している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	家族が通院できない時は、医療連携看護師が付き添い、結果を家族に報告している。臨時で往診した時は受診前後に家族に報告出来ている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	看護・介護情報提供書にて食事形態や介助の方法を詳しく情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	日頃から（訪問診療時等）情報交換や相談をしている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	介護士は、日々の中で少しでも疑問に思ったり、変化があった時は、医療連携看護師に相談できている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	医療連携看護師が待機携帯を持っており、24時間連絡がつくように出来ている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	利用者に合わせて、バイタルサイン測定を行い、異常の早期発見が出来るようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提している。	△	介護スタッフが薬の副作用まで理解出来ていないが、異常時や何か変化があった時は、看護師に相談している。看護師が、家族や医師に相談・報告している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	写真つきの内服確認表を作成し、1回分ずつ個人に分けて管理し、飲み忘れが無いようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用（周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等）がないかの確認を日常的に行っている。	△	利用者の症状が副作用化どうかは分かり難いが、何かあった時は薬による影響ではないかの話し合いをしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時・重度化した場合に、看取りについての確認を家族を中心に行っている。				事業所には、「重度化した場合における（看取り）指針」が整備され、入居時に利用者や家族に説明をしている。また、入居後にも、随時利用者や家族の意向を確認している。さらに、状態の変化が見られた場合には、対応できることなどを説明して意向を再確認するとともに、家族や主治医、関係者を交えて話し合い、方針を共有している。事業所として、「できることやできないこと」を丁寧に説明するとともに、主治医や看護師との連携のもと、職員は安心して看取り支援に取り組むことができている。加えて、看取り支援後の振り返りも行われ、今後のより良い支援に繋げている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化した場合には、家族の意向を踏まえて、訪問診療先の医師や看護師と相談し、終末期カンファレンスを開催し方針を決定している。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	当施設では吸引をできるスタッフが3名の為、常時吸引が必要な利用者は看取りが出来ないため、入院先と退院できるかどうかの確認を行なっている。看取りの後、スタッフの思いを聴き取っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	吸引が必要な場合に、頻回な吸引は出来ない事や、夜間は1人で対応していることを説明し理解してもらっている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	状態が変化した場合、スタッフ間でカンファレンスを行い、更に訪問診療先とも話し合いを持っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	急変・看取り時は居室での面会が出来るようにしている。又、少しでも状態変化時は家族に電話で報告し、家族の思いを聴くようにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染委員や感染委員会をもうけており、社会状況を見ながら対応をとり、早期発見、対応に努めている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	発生時の連絡方法、対処の仕方について話し合い出来ている。5月20日のデモンストレーションを行った。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	△	インターネット等を使用し、把握・注意をうながし感染予防に努めている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤前の手洗い、うがいを徹底出来ている。 利用者一人一人ですイスボ手袋を変えている。 来客者についても検温・来所記録をとっている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族とのライン交換、必要時の状態等、密に連絡出している。家庭状況を把握して一緒に本人について考えていく事を大切にしている				コロナの5類移行後も、感染対策が継続され、面会は玄関先で実施するなどの一定の制限は設けているが、運営推進会議は対面で開催できるようになっている。今年では会議に合わせて、夏祭りなどを同じ日に開催することができ、少しずつ家族同士の交流が図れる機会を持つようになってきている。今秋には庭先での芋炊きを計画していたが、雨天で中止となり、管理者は、「今後も家族が参加できる活動を増やしていきたい」と考えている。また、日常の様子を伝えるために、一人ひとりの利用者に合わせて、掲載する写真を変えた事業所便りを毎月発行するとともに、家族のキーパーソンの送付に合わせて、緊急連絡先に登録している全ての家族等に送付している。さらに、事業所の運営上の事柄や出来事は、事業所便りのほか、2か月に1回、運営推進会議録を全ての家族に送付して報告しており、家族の理解が得られている。加えて、家族の面会時には、管理者や担当職員からから日頃の利用者の様子を伝えるなど、コミュニケーションを図りながら、良好な信頼関係の構築に努めている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	運営推進会議にて夏祭り、芋炊きに参加して頂き本人の様子や他の利用者家族との交流の機会をつくっている。	○		○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	月に1回のユニットぐんちゅう便りは個別に作成され送付している。ラインで写真や取った時に本人が言った言葉等を送り日々の様子を伝えコミュニケーションを行っている	○		◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族と本人の関係性をについて理解し、関係性の構築等の支援を行う。会話が難しい方の側にスタッフがそばにつき、家族とコミュニケーションを図れるようにしている。加えて最近の様子を伝えている。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	月に1回送付するユニットぐんちゅう便りで行事等を知らせている。また、二カ月に一回の運営推進会議にて、より細かく状況の報告に努めている	◎		◎	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	契約時に起こり得るリスクについて説明している。日常生活の中での変化はスタッフ間で話し合い管理者や副ホーム長・看護師が説明している				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	日々の生活の出来事は日勤スタッフが、料金がかかる事などの説明は副ホーム長が、医療的な事は看護師が、など、ある一定のスタッフが携わり家族との信頼関係に努めている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時には、契約書に沿って詳しく説明している。納得・同意の上、書面上で契約している。一部は家族控えて保管して頂いている。おむつ代金変更があったが、その理由と変更金額を書面で報告した。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	利用者・家族の意見を聞き相談のうえ次の受け入れが決まってから退去に至っている。トラブル等はない。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域運営推進会議や避難訓練などで事業所の目的や役割などを説明し理解を図っている		○		事業所として、自治会に加入しているものの、管理者は「コロナ禍を経て、地域行事への参加も遠のき、地域住民との関係が希薄になっている」と感じている。2か月に1回の運営推進会議録を届けて、意見交換をしたり、行事食を届けたりするなどの関係構築に努め、会議に近隣住民の参加協力が得られるなど、少しずつ地域との交流を再開している。また、事業所では、地域の訪問理美容や高校生の園芸セラピーを通じた交流は継続されるとともに、地域の秋祭りに子供神輿の来訪もあり、利用者に喜ばれている。管理者は、「今後も自治会との良好な関係を継続していきたい」と考えている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	近隣の方とは、日常の挨拶・秋祭りなど参加しているが働きかけは少ない		◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	コロナ禍を経て、地域の方たちとの関係が気薄になっている				
		d	地域の人気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	△	コロナ禍を経て、地域の方たちとの関係が気薄になっている				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	コロナ禍を経て、地域の方たちとの関係が気薄になっている				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナ禍を経て、地域の方たちとの関係が気薄になっている				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	馴染みの理容師の訪問を受けたり園芸セラピーで伊予農生と触れ合うなど利用者本人が豊かな暮らしを持続することを大切にしている				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取 組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	運営推進会には、毎回決まった方の参加が多い。コロナ禍を経て参加人数も減っている	○	/	/	コロナ禍を経て、運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域住民、市担当者等の参加を得て、集合形式の会議が開催できるようになっている。現在、家族の参加は2名程度に留まっているが、毎回違う家族に参加してもらうとともに、利用者にも自由に参加できるように、Aユニットのリビングで会議を開催をしている。会議では、利用者の様子やサービスの実際、サービス評価への取り組み状況等を報告して意見交換するとともに、避難訓練や季節行事等に併せて開催する工夫を行い、事業所運営の理解や協力が得られるように取り組んでいる。また、議事録は会議に参加できなかった全ての家族や関係者に送付している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	意見や結果・議事録を公表しており、用事があり参加できない時でも「これを貰いに来たんよ」と資料を持ち帰ることもある	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	イベントや家族や地域の方が興味がある内容を設定し色々な方に参加してもらえるよう工夫している	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	「悔いの残らないお世話をさせていただきます」を基に「和らかい言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所」をケア目標とし、第二の我が家になるよう、職員皆で日々取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	ぐんちゅう便りに記載したり、玄関・ホールに「理念」「目標」を掲示するなどしている	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	実践者研修・相互研修・リーダー研修・管理者研修などの研修を受けることが出来るよう取り組んでいる	/	/	/	毎月、代表者は事業所への来訪があり、利用者や職員と話す機会を設けている。また、法人・事業所として、職員の資格取得に向けて費用を助成したり、有給休暇の取得を促したりするなど、職員のスキルアップや働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。さらに、年2回代表者は職員との個別面談を実施し、職員から意見や提案を聞いて検討し、利用者への支援や事業所運営に反映するよう努めている。加えて、代表者と管理者、職員との相互の信頼関係が築かれ、離職率は低く、長年勤務する職員も多い。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	スキルアップに必要な資格取得に必要な費用など会社が一部負担してくれている。主になる資格取得には勤務調整・全額負担など行うこともある。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年に二回の自己評価や毎月の管理者会での情報等を元に職員個々の勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう職場の環境条件を整備している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	一般社団法人愛媛県地域密着型サービス協会に加入し相互研修等参加している 市内のグループホーム・ネットワークに参加し、連絡会・研修会に参加している	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	休日希望・有給休暇や個々の職員の個性や特技などが生かせる様な職場づくりをしている	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	年間計画で高齢者虐待防止について学んでいる。また、認知症ケアの勉強会を行い虐待や不適切ケアを意識する事で抑止力に繋がりに見過ごすことの無い環境をつくっている	/	/	◎	定期的に、職員は研修の中で虐待防止や認知症ケアを学び、理解を深めている。全ての職員は虐待や不適切なケアが起こらないように、意識した言動を心がけるとともに、職員同士でも見逃さないようにしている。時には、不適切な言動が見られ、管理者は「みんなで考えて、気をつけていこうね」などと声をかけ、個別に該当職員と話し合うようにしている。訪問調査日には、職員同士の思いやりや感謝の言葉も聞かれ、利用者のほか、外国人の技能実習生への眼差しや声かけは優しく、安心した穏やかな生活にも繋がっている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々のケアでの振り返りを行い、どのようにしていくべきかの話し合いをつくっている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常業務の中でストレス・や疲労を感じている場面や言動はないか、ご利用者への対応・言葉づかいや表情はどうか観察・注意を払っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取 組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員全員と話し合い、正しく理解し行なっている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束・虐待防止員会を4回／年 勉強会を2回／年 行い利用者の現状に照らし合わせ話し合っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	拘束や施錠の要望はないが、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	勉強会をしつつ、学び、どのような制度での違いなどを含め理解したうえでパンフレットなどで説明をするなどを行い、支援を行っている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関（社会福祉協議会、後見センター、司法書士等）との連携体制を築いている。	△	二ヵ月に一回の地位包括支援センターへの訪問など連携に努めている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故発生時に備え対応マニュアルを作成し周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	消防署での勉強会に参加したり、看護師の指導を受けるなど実践力を身に着けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故に繋がりそうな小さなこともインシデント・アクシデントにまとめている。毎月の安全委員会で話し合い改善策をとっている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	転倒リスクアセスメントや安全委員会にてリスクや危険について検討し事故防止に努めている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応についての研修を行っている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情は寄せられていないが速やかに手順に沿って対応できるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情は寄せられていないが速やかに手順に沿って対応できるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）	○	法人・事業所の相談窓口の設定や推進会議・日常的に話を聞く機会を設けている	◎		◎	日々会話の中で、職員は利用者から意見や要望を聞き取っている。来訪時には、積極的に職員から家族等に声をかけて、利用者の近況を伝えて、意見や意向を聞くようにしている。中には、必要に応じて、SNSのLINEを活用して、連絡を取り合う家族もいる。また、日々の業務の中で、管理者は職員から意見や提案を聞くほか、定期的に実施するカンファレンスや安全委員会の中で、職員から意見や提案等も出されている。管理者は、「会議でより良い支援に向けた前向きな議論が行われている」と感じている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	法人事業所の相談窓口があるが、個別に伺う機会が多い。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は月に1回以上現場に足を運び直接職員とコミュニケーションを取り意見や要望を聞いている				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日頃から、職員一人一人とのコミュニケーションに勤めると共に、自己評価や面談により多くの意見や提案を聴く機会を持ち、常に一緒に利用者本位について考えている			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を理解し、年に1回自己評価に取り組んでいる。				毎年、全ての職員で自己評価に取り組むとともに、外部評価のサービスの評価結果を踏まえて、目標達成計画を作成している。また、評価結果や目標達成計画は、運営推進会議の中で、市担当者や地域包括支援センターの職員、会議の参加メンバーに報告し、意見をもらいながら目標達成に向けて取り組んでいる。今後は、家族等に目標達成の取り組み状況のモニターに協力してもらうなど、出された意見を職員間で検討するとともに、サービスの向上に繋げていくことを期待したい。
		b	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	職員は、自己評価を通して事業所の現状を見つめ直し、課題を明確にして意識統一している。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	結果を踏まえ目標達成計画を作成し、事業所全体で取り組み継続している	○	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	評価結果と目標達成計画は、地域運営推進会議にて、家族・市役所・地域内法支援センター他各責任者に報告している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	様々な災害時の対応マニュアルがスタッフルームに置いており。全職員が周知出来るようにしている。				年2回避難訓練を実施するとともに、2～3か月に1回防災会議を開催し、災害に備えて話し合いをしている。また、事業所内の間取りや防災計画等を運営推進会議の参加メンバーや家族に送付し、家族や地域住民に災害の備えに対して、理解を得られるように努めている。感染対策を緩和し、現在は地域住民や家族の参加協力を得て、会議に合わせて避難訓練や消火訓練を開催することができている。事業所はハザードマップや土砂災害の警戒区域には指定されいない地域に立地しているため、災害発生時に無理に動いて移動しないとの考えから、近隣住民にも役立てられるように、多めのミスや食料などの備蓄品を用意している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回の避難訓練は、消防署立会いの下で行っている。火災時の地震時の避難訓練(昼間・夜間の想定)ができた				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に消火設備、避難経路、非常食の食糧や物品の点検を行っている。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	推進会議や避難訓練など日頃から地域住民や話し合いや訓練の場を持ち協力支援体制を確保している	○	◎	◎	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	県民総ぐるみ地震防災訓練「シェイクアウトえひめ」に参加したり、他事業所と災害を想定した訓練を行っている				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	伊予市長寿介護課主催で行なわれるチームオレンジ定例会に参加し認知症ケアについて深く学び啓発活動等に取り組んでいる				事業所は、市のボランティアグループ「チームオレンジ」に所属し、職員は認知症や介護保険制度の学びを深めるとともに、利用者や家族への相談支援ができる体制を整えている。また、市行政や地域包括支援センター、法人内のグループホームなどの関係機関と、平時から連携を図ることができている。感染対策の収束後には、積極的にチームオレンジなどの地域活動やイベントなどに協力していくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	普段から相談連絡に対応できるようスタッフ間認知症についてや介護保険の仕組みについて勉強している		×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	バザーや芋炊きなど地域の人たちが集まれる場所として事業所を解放している				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	高校生園芸セラピー実習等の受け入れに協力している				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	市町や地域包括支援センター、他の事業所等、地域活動を行っていない			○	